

公益社団法人日本地球惑星科学連合

平成 28 年度第 7 回理事会議事録

1. 開催日時 平成 29 年 3 月 23 日(木)

15 時 00 分から 18 時 30 分

2. 開催場所 東京大学理学部1号館 331 号室

(東京都文京区本郷 7-3-1)

3. 出席者 理事数 20 名

出席理事 15 名 (定足数 11 名 会議成立)

出席監事 2 名

オブザーバー 8 名

4. 議長 理事 川幡 穂高

5. 出席役員

理事 川幡 穂高

理事 津田 敏隆

理事 田近 英一

理事 中村 正人

理事 古村 孝志

理事 井出 哲

理事 小口 高

理事 小口 千明

理事 北 和之

理事 木村 学

理事 倉本 圭

理事 瀧上 豊

理事 西 弘嗣

理事 浜野 洋三

理事 日比谷 紀之

監事 鈴木 善和

監事 氷見山 幸夫

6. 出席オブザーバー

宇宙惑星科学セクションボードメンバー 加藤 雄人

大気水圏科学セクションプレジデント 蒲生 俊敬

大気水圏科学セクションバイスプレジデント 杉田 倫明

地球人間圏科学セクションプレジデント 春山 成子

固体地球科学セクションバイスプレジデント 田中 聡
地球生命科学セクションプレジデント 遠藤 一佳
学協会長会議 議長 塚本 尚義
大会準備 TF 末廣 潔

15 時 00 分、理事の定数に足る出席を確認後、会長川幡穂高は理事会が成立することを宣言し、第 7 回理事会を開始した。インターネット電話 Skype を利用し、遠隔地から参加する北和之理事、倉本圭理事、加藤雄人宇宙惑星科学セクションボードメンバーが審議に参加できることを確認した。

【前回議事録確認】

第 6 回理事会議事録について、確認し、了承された。

7. 審議事項

第 1 号議案 新入会員承認の件

定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を承認した。

第 2 号議案 委員会委員承認の件

新規ジャーナル編集委員会委員を資料の通り承認した。

第 3 号議案 2017 年度連合フェロー認定について

中村正人顕彰担当理事より、1 月 30 日に開催されたフェロー審査委員会にて選出されたフェロー受賞候補者の報告があり、資料の通り承認した。

第 4 号議案 第 2 回地球惑星科学振興西田賞受賞者について

中村正人顕彰担当理事より、第 2 回地球惑星科学振興西田賞受賞候補者の報告があり、資料の通り承認した。

第 5 号議案 学生旅費支援について

学生旅費補助の国内旅費支援については 69 件の応募があった。顕彰委員会にて基準に基づき審議した結果、38 名に支援することとなったと報告があり、了承された。

1 件 5 万円以内で当初予算額として資金より 150 万円を支出することとなっているので、予算額より最大では 40 万円程度超過することが見込まれる。これに関して、北和之財務委員長より、予算の厳しいおりから、支出額はできるだけ予算額を超過しないようにしてほしいとのコメントがあった。また浜野洋三大会運営委員長より、この学生旅費補助については、2016 年より試行していて、この 2 年間の学生の応募状況をみて、今後の予算額を決定することになっている。2017 年については 150 万円を 2016 年に設定した資金から支出されており本予算からの支出はない。また超過分については、若手の援助等を使途として集められた寄付金が 200 万円程度あるので、そこから支出することを考える、とのコメントがあった。

外国旅費補助については JpGU から 250 万円、AGU から 17K \$ を原資として、AGU 側で審査決

定されているが、結果として42名が採択されたとの報告があった。

また、来年度以降の旅費支援の使途を交通費のみに限るか、交通費と宿泊費を支給するか等について議論があったが、外国旅費の取り扱いや、旅費援助全体の予算額などを含めて、2018年に向けて、今後検討することとした。

第6号議案 平成29年度事業計画書・予算書について

古村孝志総務委員長より、平成29年度事業計画案について説明があり、審議が行われた。若干の字句修正については、総務委員会に一任することで、事業計画として承認された。平成29年度収支予算書について、北和之財務委員長から予算案の経常収益及び経常費用について詳細な説明があり、特に予算の大きな割合を占める2017年大会予算案の大枠について、浜野洋三大会運営委員長より、参加費等の収入見込み及び大会会場費等の必要経費見積もりの根拠が説明された後に、審議が行われた。平成29年度年度収支予算書は、2017年のAGUとの共同開催大会に投資が必要とため大幅赤字となっているが、平成28年度決算予想が大幅黒字となっており(資料参考)、2年間でほぼ収支相償となる旨が報告され了承・承認された。

第7号議案 2020年連合大会会場について

2020年連合大会の開催会場については、オリンピック開催年の為、例年大会会場としている幕張メッセ会場の使用ができなくなる可能性を考慮し、現在横浜市により建設中で、2020年4月から使用が開始され、パシフィコ横浜が管理／運営することになっている会議施設を使用する計画で、今後交渉を進めて行くことが了承された。会場の使用募集開始は2017年4月15日なので、それ以降に具体化する予定である。なお2020年の連合大会開催期間は横浜会場においても、例年と同様に5月第3週での開催に向けて交渉している。本議案は、今回は方向性を議論したが、継続審議となり今後とも理事会で議論することとなった。

第8号議案 「キーノートスピーチ講演者への謝金等について」

キーノートスピーチ講演者への謝金等について審議され、決定された。

8. 報告事項

(1)川幡穂高代表理事職務報告

学協会長会議の幹事会規則(案)への学協会(日本陸水学会、リモートセンシング学会、日本地質学会)からの質問への回答案について川幡穂高会長より説明があり、議論された結果、理事会に提出した文案が認められた。

また、坂本尚義学協会長会議議長より、幹事会の規則が、平成29年度第1回理事会で承認されれば、その後引き続き開催される次回の学協会長会議で幹事会メンバーを選出する予定である旨、報告があった。

(2)田近英一理事(広報普及担当)職務報告

現在、連合のホームページが障害中である。原因が複雑なため復旧見込みは未定であるが速やかに対処したい、との報告があった。

ハイライト論文については、2017年から広報委員会で担当し、プレス向けの論文などを個人から

提案を受け付け、その後で、関連するセクションに選出を依頼することとした、との説明があった。なお昨年と同様に、JGLの本年2号は、日本語の大会プログラムを掲載する、との報告があった。

(3) 中村正人理事(顕彰担当)職務報告

2017年度連合フェロー認定について、および第2回地球惑星科学振興西田賞受賞者について説明があった後に、フェローの推薦や審査方法について、フェロー審査委員会からの理事会への質問や要望に関しての報告について議論された。

一人が複数の候補者の主たる推薦者になれるかどうかについては、議論の候補者を推薦することは排除しないこととした。また、連合の会長や副会長等がフェローの推薦者、サポートレター提供者になることについて議論された結果、セクションプレジデントが推薦人となることは可能であるが、連合の執行役員である会長、副会長は推薦人になれない方が良いということで、合意された。また、一人の候補者について複数の推薦があった場合について議論され、複数の推薦を受け付けるが、審査に入る前に、審査委員会の方で推薦人に連絡をとり一本化を願うのが良いのではないかという見解が出された。

西田賞への応募について、次回の可能性のある応募者には再度応募されるようにご案内することが定形文案と共に提案され、提案が認められた。

西田賞が「人に対する賞」であることと、受賞者の条件(2名まで連名を認める場合がある)の齟齬について議論された。また、連名の条件について、特段の確たる理由があって規約に入れられた文言でなければ、これを外して良いのではないかという提案があり、賞の提案者である西田篤弘先生と顕彰委員会委員長が調整をすることとした。場合によっては”原則として”などの文言の挿入も検討することも含め、顕彰委員会委員長に一任する。

続いて、受賞者のセクションバランスについて、議論された。セクションボードに委員会は設置しないで、応募、推薦を奨励すること、とした。セクションバランスに関する文言については外して良いが”原則として”などの文言の挿入も含めて、賞の提案者である西田篤弘先生と顕彰委員会委員長が調整をすることが了承された。

審査の結果相応しい方が10名に満たなかった場合、どうするべきか議論され、10名に満たなくても構わないとすることとした。また審査の隔年の開催は今後も維持し、10名以内の受賞者を選ぶこととした。

学生旅費援助については顕彰委員会での意見が披露され、理事会でも意見が出されたが、今後どうするかについては、継続審議となった。来年度は2016年と同様に海外旅費と国内旅費の両方を扱う必要があるが、現在の法律では国外居住者への旅費の支出について税制上の問題等があるため。国外旅費と国内旅費の切り分けを明確にしてから、予算の総額をどうするかを勘案した上で、学生旅費補助の体制を考えていくこととした。

(4) 古村孝志理事(総務担当)職務報告

現在作成中の平成28年度事業報告について説明があった。本報告書と平成28年度決算については、2017年の社員総会において承認される運びとなる。

(5) 北和之理事報告(財務担当)職務報告

平成28年決算案(3月15日現在版)および平成29年度の予算案について、報告があった。決

算案については2017年4月以降に確定した後に、2017年5月に開催される社員総会で承認される。予算案については、前回の1月の理事会で示して以降、2017年大会でのセッション数、講演数等が確定しているため、より確度の高い予算案となっている。この予算案では、投稿料等の収入増加と、講演数増に伴う講演会場等の追加による支出増があった。結果として2017年予算案では、約2300万円の赤字となっている。この赤字分は2016年度の黒字分(約2200万円)とほぼ相殺され、2017年のJpGU-AGUジョイントミーティング開催のための投資分が、2016年と2017年の2年間でほぼ解消できるとの説明があった。

(6) 倉本圭理事(ジャーナル担当)職務報告

論文投稿・出版状況について報告があった。EPSとの今後の協力体制については引き続き、検討中であるとのことだった。また、1月と3月に行われた編集長会議の報告があった。PEPS表彰制度、西田賞受賞者へのPEPSへの論文投稿依頼について説明があった。PEPS・EPSの代表による会議の報告があった。地球惑星科学関連学協会の連合体が連携し、日本の地球惑星科学コミュニティとして質の高いジャーナルを刊行するという理念を共有することを合意した。次期会合は、夏頃とし、両者の協力体制の確立を具体的に検討することとなった。EPSについては今後、出版分野の範囲を拡大していく計画である。

(7) 浜野洋三理事(大会運営担当)職務報告

大会準備に関しては、2月16日17時の投稿締め切り以降、講演の採択、セッション編成等の膨大な作業を、セッションコンビーナー、プログラム委員会と事務局との緊密な連携によって、全ての作業をほぼ予定期日内に完了することが出来、3月10日に発表プログラムの公開を行なうことができた。2017年の採択講演数は5562件となり、2016年に比べて1300件(+33%)以上の大幅増となった。講演数は各セッションで増加しているが、特に大気・水圏セッションの講演数は、2016年の588件から2017年は1186件と倍増している。また講演はオーラル2863件。ポスター2699件と、目標としていた1対1の割合がほぼ達成されている。この結果は2016年大会からはじめた会場の配分方式が定着し、コンビーナーの皆さん方の協力のおかげである。海外からの投稿者は、50カ国から1192名となっている。2016年が海外からの参加者は363名であったので、今年度は800名以上の増加が見込まれる。

なお、幕張メッセ以外の大会会場名に、これまでアパホテルの記載を用いていたために、アパホテルを利用することについて、抗議のメール等があった。実際にはこの会場は「ウェディングヒル 東京ベイ幕張」という名称で、管理運営は榊昭特製作所(SHOTOKU Co. Ltd.)という会社の婚礼業務部が行なっていて、連合としてアパホテルとは直接契約していない。上記質問者にはAGUと協議のうえ、その旨回答済みであり、了承されている。今後プログラム、案内等では、この会場名については、日本語表記は「東京ベイ幕張ホール」、英語表記は「Tokyo Bay Makuhari Hall」を使用することとした。従って、ウェブページ、プログラム等に記載する講演会場については、幕張メッセ国際会議場、幕張メッセ国際展示場、東京ベイ幕張ホールを用いる。

(8) 大会準備タスクフォース報告

末廣潔 TF 主査よりジョイント大会に向けてのAGUとの連携事項が資料の通り報告された。前回理事会(#6 01/17/2017)以降の活動状況と活動方針の報告があった。

セッションの投稿者数は予想を超える数であったため、現在、セッション以外のイベントなどを企画準備中である。AGU 側基調講演は Lucy Jones さんに確定。International Mixer Luncheon は小谷亜由美さん主導で 100 人規模で実施予定である。Student Travel Support については、国際は AGU が担当する。国内は JpGU が担当する。AGU 側からの補助は 17K\$ である。Students Presentation Awards は JpGU 方式に AGU メンバーがレフェリー参加する。Students pop-up talks では国内学生主体チームと AGU 側の担当者と連携して、日本名「おしゃべり広場」を計画中である。

Hot topics discussion について、ディスカッションの場が設けられるようにこれから築きあげていけるように、協議中とのことだった。約 1000 人の海外からの参加者増が見込まれる為、国際参加者向けの JpGU 紹介パンフレットを作成中であるとの報告があった。配布用に 1000 部印刷予定する等、2018 年以降へ向けて AGU との今後の協力様式の引継ぎを行っていく。

(9) グローバル委員会活動報告

アジア戦略については提出予定だったが検討中である。個別のチャンネルを生かしながら戦略を立てていきたい。大会期間中にも連携を模索する。川幡穂高会長より、グローバル、大会委員会関係者と協議の上、Presidential reception への招待者を検討した旨、報告があった。理事、セクションプレジデントは、もちろん、招待され、AGU、- EGU、- AOGS の招待者と情報交換などを行なってほしい旨の発言があった。科学アタッシュ、出版社等にも声をかけて、Presidential reception へ招待する予定である。

(10) 教育検討委員会活動報告

第 10 回国際地学オリンピック収支、第 9 回地学オリンピック準備状況、日本科学オリンピック委員会設立について報告があった。教員免許状更新講習は文科省より、認定をうけたため、開設・募集開始へ向け最終準備段階中である。「地学基礎」提言について指摘を受け、文案の細部を修正した。文科省に再度確認し 4 月以降に提出予定である。文言に問題あれば、委員会まで連絡することとなった。

(11) ダイバーシティ推進委員会活動報告(小口千明理事)

ハラスメントについて理事会からの依頼に基づき委員会で議論をした。次年度前半にアンケートにて状況を把握し、後半に宣言文の案を作成、理事会承認のうえ会長名で発出するという活動計画を立てた。それ以降の計画として、専門委員会や窓口の設立についての議論があったことも紹介され、継続的に検討していく必要があることが報告された。

(12) その他

(12-1) 川幡穂高会長より、軍学の問題に関する、ユニオンセッションが開催され、川幡穂高会長・田近英一副会長もコンビーナーとなっている。個人を含めて意見を問われる可能性がある。本件に関する原則について、項目を検討した。

(12-2) 事務局より、学生優秀発表賞審査員募集の追加募集のお知らせがあった。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(18時30分)

以上の議事の内容及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席役員は次に記名・押印する。(捺印欄配布時省略)

平成29年3月23日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第7回理事会

出席理事	川幡	穂高	印
出席理事	津田	敏隆	印
出席理事	田近	英一	印
出席理事	中村	正人	印
出席理事	古村	孝志	印
出席理事	井出	哲	印
出席理事	小口	高	印
出席理事	小口	千明	印
出席理事	北	和之	印
出席理事	木村	学	印
出席理事	倉本	圭	印
出席理事	瀧上	豊	印
出席理事	西	弘嗣	印
出席理事	浜野	洋三	印
出席理事	日比谷	紀之	印
出席監事	鈴木	善和	印
出席監事	氷見山	幸夫	印